

令和2年度 第3回 学校運営協議会報告

職

開催日 令和3年3月12日（金）（書面にて）

学校協議会委員：真野 正道（元府立学校校長）
林 浩子（寝屋川市立第一中学校校長）
巽 順子（地域住民）
松下 孝雄（北水会）
高崎 美和（卒業生保護者、地域住民）
松本 一恵（PTA 定時制委員会委員長）

准 校 長：小早川 真一

事 務 局：伊藤 牧子（教頭） 住友 敏弘（事務部長） 沼田 慎也（首席）
鈴木 俊哉（教務主任） 河本 拓也（生徒指導主事）
田代興太郎（進路指導主事） 小山 翔子（保健主事）
西本 裕幸（人権教育推進委員長、道徳教育推進教師、4年学年主任）
大江 理（3年学年主任） 伊達 康人（2年学年主任）
和氣 裕佑（1年学年主任）

1 協議（提言は、下線部が引かれた部分）

（0）全体的な感想

（提言・意見）

○小早川校長先生、着任1年目、ご苦労様でした。

コロナ禍の中、教職員の皆様はもちろん、生徒たちにとっても困難や戸惑いがあったことと思う。行事の縮小は得てして学習意欲の低下につながりますが、教職員一丸となった「学校力」向上の取組みで、「授業力」「指導力」に関する生徒・保護者からの学校評価は年々高まりつつあり、喜ばしいことだ。教職員の皆様に敬意を表する。「学校力」向上の取り組みに期待したい。

○この一年間、教育課程はもちろん、様々な学校行事や研修が変更の連続で、教育現場は本当に大変だった。そのような中、体育祭や文化祭の準備や開催も並々ならぬ努力や工夫を強いられたと思うが、無事に実施され何よりだ。中学校も同様に、十分な実践ができなかったと悔やまれる年度となったが、逆にこういった状況にならなければ見えなかった課題、思い切ってできなかった改革が現実とせまり、立ち止まって考えることができたことは、貴重な1年になったと振り返る。

○資料を見て、常に生徒一人ひとりに寄り添う高校であることや、学年末の様子がよくわかりました。

（1）第2回授業アンケート結果について（別紙）

（提言・意見）

○どの結果も今回が最高だったのは、先生方が授業内容をわかりやすいように工夫された結果である。わかりやすい授業づくりに向けた取組み（ICT活用等の教材の工夫・授業見学・授業規律の確立・生徒との信頼関係構築等の成果として、高く評価できる。今後においては、それぞれの項目の向上をめざしつつも、少なくとも大幅なマイナスにならないように現状維持をお願いしたい。

○R元年7月の急激な落ち込みの後、R元年12月、R2年7月、R2年12月と進むにつれ、年々生徒からの評価が高くなっていることに安堵するとともに、先生方の地道な取組みがこの裏にあったことが、「考察」からも伺えることに感謝する。生徒にとって「分かる授業」が「学ぶ意欲」につながり、「生きる力」になってくるので、引き続きの取り組みをお願いしたい。

○家庭学習期間を経験した生徒たちが「目の前で説明してくれる授業を受けることができるのは楽しい。わかりやすい。」と感じたのではないかと思った。

○素晴らしい結果である。特に、「生徒の授業中の取組み」について「3.71」の数値は、かつて学びに対して少なからずの課題を抱えていたと考えると、生徒自身の意識向上の結果を示すものである。

○集中力が持続しにくい生徒にたいしてもわかりやすく説明し、全体的に学力向上につなげている。

(2) 学校教育自己診断（生徒・保護者）の結果や学年の様子について（別紙）

（提言・意見）

○コロナ感染症防止による様々な規制や制約のある中、授業アンケートをはじめ、学校教育自己診断で、生徒や保護者から肯定的な回答が得られたのは、日々の教育活動の成果であると考ええる。

○良好な結果は、准校長はじめ、全ての教職員の方々の日頃からの実践努力の賜物と敬意を表す。

○生徒・保護者からの高評価は、学校信頼の表れである。

生徒にとって、①学校へ行くのが楽しい、②授業が分かる、③行事が楽しい、の3点がポイントではないかと思う。①の60%台は気になるところだが、②と③は70%台にあり、全体的にいい評価を得ていると思った。

「命」「安全」に関わる項目に高い評価があるのも先生方の取り組みの成果の表れだと思う。

保護者の評価も全体に好意的で学校の信頼度の高さが感じられる。「分析」については、コロナ禍の中、大変だったことが伺える。「行事」での評価減は仕方がない。そんな中でも保護者からは「授業は落ち着いている」と20%増の高評価を得ているのはうれしいことだ。

○ゼロ時限目、土曜講座を受けてみたいという割合が増えるには、どういう働きかけをすればよいか、すぐに良い案は思い浮かばなかった。基礎的な知識を得たり、楽しく校外学習をすることで単位が得られるのであれば、肯定的な考えの方が多いと思ったのだが、、、具体的にどのような講座、見学が行われてきたのか、またお聞きしたい。

○図書の貸し出しが増えているとのことで、これからも授業等で工夫していただき、本に触れる機会を増やして行ってほしい。図書室が心地良い居場所となるようによりしくお願いしたい。

(3) 分掌チャレンジのまとめについて（別紙）

（提言・意見）

○学校経営計画に基づいた取組みを各分掌で、しっかりと分析・チェックされていることがよくわかる。

内容を教職員間で共有して次年度の方策につなげていってもらいたいと考える。

○今年度ならでの課題（コロナによる影響）が浮き彫りになったと思うので、来年度の方掌チャレンジに活化していただくようお願いする。就業率50%と下がっている現状については、心が痛いところである。

○教務関係は、分かる授業に教職員の創意・工夫がみられる。コロナ禍での休校・分散登校もある中で、ICT機器の活用や教材の工夫、授業研究を行うなど指導力向上に取り組み、「分かる授業」に教職員一丸となっているのが分かる。

○生徒指導に関しては、同じ価値観を持つての指導が活かされていることがわかった。学校として同じ価値観で指導することは、当然ではあるが、これがなかなか難しい。そんな中、職員会議や新任研修などで意思統一するなど、教職員が一致して指導する体制ができていることは喜ばしいことだ。

コロナ禍での行事への取組みが、生徒にとって大きな期待減となったことは、一人寝屋川定時制だけの問題ではない。この経験・体験を新たな飛躍へと転換する発想で、生徒も教職員も前向きにとらえて今後へとつなげていただきたいと思う。

○困難を抱える生徒たちへの支援について、100%支援は目標、目の前の生徒に寄り添っている。

不登校生徒、長期欠席者、障がい配慮生徒、日本語指導が必要な生徒等、支援の中身は多種多様である。少ない教職員の中で100%対応は目標にして、S S W、S C、養護教諭を中心とした体制で、一步一步目の前の生徒の悩みを大事に取り組んでいってほしい。こころや体のしんどさに悩みながらも、それでも学びたいという意欲を持って入学してきた生徒たちです。励まし寄り添っていただきたい。

○進路指導に関しては、「終わりよければ全てよし」の気構えで。「進路通信」の発行、「就職セミナー」の開講、「進路ガイダンス」の開催など、コロナ禍での時間制約の中、よく頑張っていたと思う。

「昨年度より早いペースで進路が決定している」ことは喜ばしいことだ。ただ、コロナの影響で企業の募集停止が響いている中、一人でも多くの生徒の就業支援に一層取り組んでいただきたい。

○組織の活性化と人材育成について、働きやすい職場は人を活性化させる。学校は今やブラック企業かと言われるくらい厳しい労働環境に置かれている。大学卒業生の教員をめざす割合が減少しているというニュースに驚くばかりだ。そんな中、「時間外勤務を軽減」の目標は、教職員にとって最も安心できる職場環境になると思う。パワハラ・セクハラ・マタハラ等の研修を含め、学校コンプライアンスの研修に一層取り組み、安心して働ける職場に心していただきたいと思う。

○タブレットの特性に合うものを見極めて利用することが効果的だと思う。

- 考えるための下準備となるデータを効率よく得て、時間短縮を図る。→「調べる」のみで終わらず、そこから発展させて「対話型の学び」につなげる。
- 動画教材を利用して頭の中でイメージを作りやすくする。→動画を一から作るのは手間も時間も必要なので「NHK for school」などを利用する。小学校6年生教材ではありますが『歴史にドキリ』は歌やダンスを取り入れてインパクトがあり、面白くて好きだ。

○コロナ以降、民間企業では資料を作る等の作業チームを立ち上げ、ネットワークを利用して業務の生産性向上を図るという動きが広がっているようだ。具体的には、クラウドを利用したフリーソフトを使って「コンピューター共同編集」をしています。（例えば、無料のGoogle ツールです。）ID・パスワードを持つメンバーが一つの資料にログインし、複数メンバーによる書き足し・削除・変更・コメント・注釈をつけるなどが好きな時に可能になる。ネットワークの利点を大いに活用し、学年や委員会等多方面にわたる書類作成の場合、「メンバーが」「自分のできるタイミングで」「自分の関係部分を作る」→「整合性を互いにチェック」という手順を取ることで時間の短縮に繋がるのではないかと思う。

○首席が中心となり、人材育成や新たな企画にも取組まれ、youtybe 動画視聴させていただいた。わかりやすく良かった。

○感染拡大が報道されている時期だったので11月の修学旅行が無事に行われたのかと心配していたが、ホームページで「行ってきました」という記事を読んでほっと安心した。予定変更で先生方は大変だったと思う。ご苦労様でした。

(4) 令和2年度学校経営計画及び学校評価について (別紙)

—6人中6人 承認

○生徒たちが、日々の授業や学校行事そして進路実現に向けて、主体的に参加・活動する「考える力」を發揮できるようにご尽力をお願いしたい。

○一つひとつ丁寧なコメントを出されており、わかりやすいものであった。中退率が大きく減少していること、コグトレ教員研修を実施されたと聞いたが、その継続した取組み成果が今後の学力向上や生徒の自己肯定感の向上につながるものと確信する。

○今年度は、新型コロナウイルス感染が世界中に拡大し、様々な日常生活が制限され大変な状況だった。学校行事も中止や縮小となり、例年通りにならなかった。緊急事態宣言時の授業対応も、当初は手探り状態で混乱も見られたが、現在は適切な距離を取りながらのコミュニケーションを工夫し、リモート授業に向けての準備を行っているので、学校生活もスムーズに行われていると感じている。

○体育祭や明月祭は、打ち合わせや練習が不十分だったが、生徒と先生の工夫と努力で用意できたことは、とても良かったと思う。次年度はこの状態が続かないとは言えないので、早めにコロナ禍での学校行事について、計画を立てることができればと思う。

(5) 令和3年度学校経営計画及び学校評価について (別紙)

○小早川校長先生の1年目の学校経営計画は、当然ながら前年度の踏襲の中、一年を経験され、新たな視点での取組みの必要性を感じられ、次年度(R3年度)の学校経営計画の大幅な改善が図られた。期待するところ大である。文章の変更だけでなく、実質的な「学校力」向上を図られんことを期待する。

(6) コロナウイルス対応の取組み (別紙)

○医療関係のひっ迫がニュースになっているが、学校の保健室も同様か、それ以上の危機管理をされている様子が伺える。本当に頭の下がる思いだ。コロナ陽性者の発生もあり、心的ストレスも感じられたことだろう。生徒も教職員も命あってこそ、だ。細心の注意を払って対応していただけるようお願いしたい。

○「新型コロナウイルス感染症のまとめ」については、養護教諭を中心とした保健部の防止対策、現状等がよくわかり感心した。私の学校では、ここまでの報告書作成ができておらず、反省とともに参考にさせていただきたい。

○しっかり取組まれ、学校内での感染拡大を防止されていると思う。この一年間、学校運営が大変な中、コロナウイルス感染症対策による制限と学校目標を見据え、学校の創意工夫で、スムーズに学校生活がまとめられていると感じた。

○ワクチンの摂取は始まっても「一般のインフルエンザと同じような気持ちを人々が持つ」までには、まだまだ時間がかかると思う。先生方の負担はこれからも続くと思うが、すべての生徒が自分自身にとって最良の道を選べるようご指導をお願いしたい。